

厚生労働省から発出された「処方箋医薬品（医療用麻薬及び向精神薬）の取り扱いについて」の通知

事 務 連 絡
平成23年3月14日

各都道府県衛生主管部（局）御中

厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課

平成23年東北地方太平洋沖地震における
処方箋医薬品（医療用麻薬及び向精神薬）の取扱いについて
（医療機関及び薬局への周知依頼）

平成23年3月11日に発生いたしました、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震及び関連する津波等による被災地における処方箋医薬品の取扱いについては、平成23年3月12日付け厚生労働省医薬食品局総務課発事務連絡により取り扱われているところですが、処方に麻薬処方箋を要する医療用麻薬、及び向精神薬処方箋を要する向精神薬に関する取扱いについては、下記のとおりとなりますので、被災地における医薬品を必要とする者への供給に支障なきよう、貴管下の関係者に周知願います。

記

今般の地震及び関連する津波等による被災地の患者に対する処方箋医薬品（医療用麻薬及び向精神薬）の取扱いについては、医師等の受診が困難な場合、又は医師等からの処方箋の交付が困難な場合において、麻薬小売業者等が、被災者の患者さんの症状等について医師等へ連絡し当該患者さんに対する施用の指示（麻薬の施用にあっては麻薬施用者からの指示）が確認できる場合には、患者さんに対し、必要な医療用麻薬又は向精神薬を施用のために交付することが、可能であること。

この場合、麻薬小売業者等において、医療用麻薬及び向精神薬を患者さんに提供した記録について、適切に保管・管理すること。

注）医師等に施用の指示を確認する際、患者さんが常用する医療用麻薬及び向精神薬に関する情報（薬剤名、用法・用量等）について、予め患者さんに確認（可能な限り薬袋などにより）するなど、医師等が施用の指示を円滑に行えるよう留意すること。

(参 考)

○ 麻薬及び向精神薬取締法（昭和 28 年法律第 14 号）

（譲渡し）

第二十四条 麻薬営業者でなければ、麻薬を譲り渡してはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。（略）

10 麻薬小売業者は、麻薬処方せん（第二十七条第三項又は第四項の規定に違反して交付されたものを除く。）を所持する者以外の者に麻薬を譲り渡してはならない。

（麻薬小売業者の譲渡）

第二十五条 麻薬小売業者は、麻薬処方せんを所持する者に麻薬を譲り渡すときは、当該処方せんにより調剤された麻薬以外の麻薬を譲り渡してはならない。

（譲渡し等）

第五十条の十六 向精神薬営業者（向精神薬使用業者を除く。）でなければ、向精神薬を譲り渡し、又は譲り渡す目的で所持してはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。

4 向精神薬小売業者は、向精神薬処方せんを所持する者以外の者に向精神薬を譲り渡してはならない。ただし、向精神薬営業者から譲り受けた向精神薬を返品する場合その他厚生労働省令で定める場合は、この限りでない。

（向精神薬小売業者の譲渡し）

第五十条の十七 向精神薬小売業者は、向精神薬処方せんを所持する者に向精神薬を譲り渡すときは、当該向精神薬処方せんにより調剤された向精神薬以外の向精神薬を譲り渡してはならない。

○ 「処方せん医薬品等の取扱いについて」（平成 17 年 3 月 30 日付薬食発第 0330016 号厚生労働省医薬食品局通知）

1. 処方せん医薬品について

(1) 原則

処方せん医薬品については、病院、診療所、薬局等へ販売（授与を含む。以下同じ。）する場合を除き、新薬事法第 49 条第 1 項の規定に基づき、医師等からの処方せんの交付を受けた者以外の者に対して、正当な理由なく、販売を行ってはならないものであること。

なお、正当な理由なく、処方せん医薬品を販売した場合については、罰則が設けられているものであること。

(2) 正当な理由について

新薬事法第49条第1項に規定する正当な理由とは、次に掲げる場合によるものであり、この場合においては、医師等の処方せんなしに販売を行っても差し支えないものであること。

- ① 大規模災害時等において、医師等の受診が困難な場合、又は医師等からの処方せんの交付が困難な場合に、患者に対し、必要な処方せん医薬品を販売する場合

解説

この通知には、今回の地震および津波等を被災された患者さんに対する医療用麻薬および向精神薬に関する調剤薬局での取り扱いについて示されています。

被災された地域で在宅療養や外来受診中の患者さんが、処方せんを受け取ることができない状況の場合（被災により医療機関に受診することが困難、訪問診療や訪問看護を受けることができない、地域の診療所や病院が機能していないなど）、医療用麻薬を取り扱っている調剤薬局を通じて、医師等に患者さんの症状を伝え、医師からその患者さんに対する医療用麻薬や向精神薬の施用（使用）の指示があった場合には、患者さんに対して必要な医療用麻薬や向精神薬を渡すことができます（医療用麻薬についての指示を出すことができるのは麻薬施用者に限られます）。

この通知の中には、訪問診療を行っている医師や訪問看護師などが患者さんの依頼によって医療用麻薬や向精神薬を受け取り、患者さんの自宅や避難所などまで運ぶことができるかどうかについて明記されていませんが、現行の薬局における麻薬管理マニュアル（平成18年12月の厚生労働省医薬食品局）の解釈によれば可能と考えられます。患者さんが医療用麻薬小売業者（以下医療用麻薬取扱い薬局）まで出向くことが困難な状況においては、医師や看護師が患者さんの依頼を受けて、医療用麻薬取扱い薬局から医療用麻薬や向精神薬を受け取り、患者さんの自宅や避難所などまで運ぶことはできると解釈されます。

いずれの場合においても、医療用麻薬取扱い薬局は医療用麻薬や向精神薬を患者さんに提供したことを記録したうえで、適切な保管と管理をするように求めています。

なお、医師に医療用麻薬および向精神薬の施用（使用）の指示を確認する場合には、患者さんが常用している医療用麻薬および向精神薬に関する情報（薬剤名、用法・用量等）について、あらかじめ患者さんに確認しておき、医師からの指示をスムーズに受けられるように注意してください。また確認の際に、常用している薬剤については、可能な限り薬袋など薬剤の処方内容が確認できるものを用いて確認するように求めています。

（国立がん研究センターがん情報サービスより引用）

この事務連絡は各都道府県衛生主管部（局）に出されたものですが、そのことについて
社団法人日本薬剤師会 にも伝達されています。